

平成25年度第5回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（1日目）

日 時：平成26年3月20日（木）

午後6時～午後8時40分

場 所：弘前市民参画センター3階グループ活動室

出席者：審査委員 檜楨委員長、島委員、鴻野委員、清藤委員、
齊藤（き）委員（事業番号6欠席）、西川委員、小友委員、木田（直）委員、
木田（多）委員、工藤委員、宮川委員、長内委員、小林委員
※2名欠席
市民協働政策課 櫻田課長、三上補佐、白戸主幹、工藤係長、對馬主査、佐藤主事、
阿保主事

1 公開プレゼンテーション・審査会

<プレゼンテーション・審査方法>

- ・1事業ごとに公開プレゼンテーション・審査を実施。（審査は採点方式によって決定。）
ただし、申請金額が20万以下の事業については、公開プレゼンテーションへの参加を申請団体の任意とする。事業説明を希望しない場合は、申請書類と事務局の事業説明により審査を実施する。
- ・審査委員が申請団体に所属する場合は、プレゼンテーションから審査まですべて外れる。

（公開プレゼンテーション有）

1. プレゼンテーション …15分程度
（7分以内で事業内容の説明。残り時間で質疑応答。）
2. 審査 …20分程度
（事業内容・金額について審議後、採点表に記入。）
3. 採点結果発表 …採点表集計後、休憩ごとにまとめて発表。

（公開プレゼンテーション無）

申請団体によるプレゼンテーションを省略し、1事業につき15分程度とする。

【審査項目】

審 査 項 目	
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている

実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる

【審査採点】

区 分	評 価
審査項目に合致している	10点
やや、審査項目に合致していない部分がある	5点
審査項目に合致していない	0点

【決定方法】

採択…出席委員の合計の平均点が60点以上かつ、各審査項目の平均点が3点以上

《審査内容》

●6：五代町会夏祭り&ほたる観賞会（学習会）／五代町会

※公開プレゼンテーション無し。

【質疑応答（抜粋）】

Q：ホテルの鑑賞会だけではなく、次代を担う子どもたちへの環境教育と、素晴らしい環境を残していくこともあわせて行ってもらいたいと考えるが、その点についてはどうか。

A：夏祭り前の清掃への参加者も増えており、子どもたちも積極的に参加しているなど、地域に住む人たちの意識も変わってきている。また、農家が多い地域のため、水に気を使うとか、田んぼに使用する農薬にも気をつけなくてはいけないというような話も出てきており、色々動き出している。

Q：昨年度の報告書に改善点も上がっているが、実施後の町会全体の盛り上がりとしては、内容をさらに高めていこうという話は団体から出ているか。

A：現在は夏祭りと連動して実施しているが、ホテルの観賞会を通して、環境について話し合う機会が増えるため、ホテルの観賞会により力を入れている。また、ホテルが発生する環境を整えていこうと話が進んでおり、いずれは、ホテルをメインにして、観賞会を独立させた形で地域を盛り上げていきたい。

【主な意見】

- ・ホテルを見たくても見られない地域からすれば、うらやましい環境であるため、あまり整備しすぎず、町会で話をしながら今の環境を残していただきたい。
- ・町会で環境教育に取り組んでいるところは少ないと思うので、ただホテルを見るだけではなく、子どもたちの環境教育にも結び付けていただきたい。
- ・どのようにしたら地域の人たちが集まるのか、各町会が苦勞しているという問題がある中、夏祭りとはたる観賞会（学習会）を別々に行うことは理想的かもしれないが、1年

に1度しかない夏祭りで、子どもたちがホテルを觀賞すると同時に、地域の住民たちとコミュニケーションが取れる場でもあり、こういう合わせ技も魅力であって、効率的な部分もある。

- ・子どもたちにわかりやすい学習会用の資料を作るなどの工夫も見られるので、ぜひ継続していただきたい。

【採択結果】

合計点 90.0点 ≥60.0点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	9.2
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	8.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	8.8
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	6.7
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	10.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	10.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	9.6
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.8
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	9.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	9.2
合計		90.0

●20：弘前市民の森で元気になろう／弘前市民の森の会

【質疑応答（抜粋）】

Q：事業を実施して3年目ということで、弘前大学のボランティアセンターとのつながりや、弘前医療福祉大学で授業の一環でボランティア活動に単位を認めていることから学生がボランティアで参加してくれるなど、どんどん広がり出てきてとてもいい活動になっているように思えるが、そういう理解でよろしいか。

A：以前から学校でのボランティアや被災地支援（野田村）のボランティアに参加しており、そのつながりから事業への参加をお願いしたところ、学生に参加してもらうことができたり、目に見えて効果が出ていると思う。また、登校拒否や教室拒否の子どもたちへの、カウンセリングやいろんな園芸療法などを行ってきた実績もあり、そのような子どもたちが、家族と一緒に参加するというにも、今後はつなげていきたい。

Q：事業実施場所（市民の森）が遠く、バスの本数が少ないなどの交通事情の面で問題があったが、今年度は送迎ボランティアをお願いするということから、送迎に係る経費など

についてどの程度改善してきているか。

A：昨年度からボランティアで学生も事業に参加しているため、ボランティアの人に送迎をお願いしたいと考えており、車での送迎にかかる謝礼を計上することで、タクシーでの送迎を減らして、送迎にかかる経費を昨年度の3分の2にしたいと考えている。

【主な意見】

- ・大学側で、学生を地域に出していこうと盛んに言われている中で、学生とのつながりを大事にしたり、弘前市で短命県返上に力を入れて積極的に動いていることを捉え、郷土食作りを取り入れるなど、情報力の強さを感じる。
- ・今年から、事業の中にゲートキーパーによる自死対策の講演を取り入れるなど、地域の課題を捉えており、このような対策のフォーラムなどを有料で行っていくことによって、将来的に補助金からの自立につながると思う。
- ・町会連合会に事業を紹介していくとか、地域包括支援センターを活用することで、地域に住んでいる元気な高齢者に声をかけやすくなる可能性もあり、各町会で送迎ができる人を含めて参加してもらおうことができると思う。

【採択結果】

合計点 88.8 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.1
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	8.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	8.8
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	8.8
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	8.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	9.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	9.6
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.8
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	8.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.8
合計		88.8

● 8：～和徳の歴史の探求と伝統ある津軽の歴史の魅力発信事業～

題「けの汁発祥の地 和徳城」和徳城主 小山内讃岐の守没後 443 年祭／和徳歴史探偵団

【質疑応答（抜粋）】

Q：和徳の歴史をまとめた冊子を 200 部作り、教科書として歴史を学ぶ学習会を開催す

るということだが、配布する対象はどのようなところを想定しているか。

A：個人ではなく施設に配る予定であり、和徳小学校の学区で社会教育講座があるので、学区内の小・中学校や図書館などに配布したい。

Q：江戸時代よりも前の和徳城の歴史について冊子を作ることもいいが、昭和40年以前は住宅地図が無かったと思うので、50年位前の和徳の街並みがどうだったかについて、今住んでいる人たちの記憶をもとに、紙の上で平面図で書いてみてはどうか。

A：和徳十文字から堅田の方面までだと、かなりの距離がありなかなか難しいが、実は古くから住んでいる人にお願ひし、少しずつ情報収集して書いてもらっている最中で、いつか日の目を見らと思う。

Q：これまでけの汁を無料でふるまっているが、今後有料にする計画はあるか。

A：けの汁自体を歴史や食の文化を伝える「ツール」として考えているので、みんなにおいしいものを食べてもらいたいため、赤字でもけの汁は有料にせず、いろいろな関連グッズを販売して収入を得ている。ほかの地域でも、宵宮や夏祭りなどこのような活動を行っていけば地域の活性化につながると思う。

Q：けの汁にはコンテストが行えるほど種類があるのか。

A：例えば、深浦の方では小豆が入っていたり、我々がふるまいで作るものにはじゃがいもが入っていたりする。家庭で作られているけの汁の中にも、いろいろアレンジしているものがあり、楽しめるのではないかと思った。コンテストでは、書類審査でレシピのアイデアが良いものを選んで、上位5人には、後日実際に作ってもらい、それらを採点してグランプリ等を決めたい。

【主な意見】

- ・地域の歴史本を作ることや、マップをさらに有効なものにするということだけでも、市が行ってもいいような事業の一部を担っていると思うので、ぜひ頑張ってください。
- ・小豆入りのものやサツマイモが入ったものなど、地域によってけの汁に入る具材に特徴がある中で、インパクトをもった独特のものをやらなければならないことは大変だと思うが、ぜひ継続していただきたい。

【採択結果】

合計点 83.5 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.8
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	6.9
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	8.8
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	6.9
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	8.1
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	9.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	8.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.8
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	8.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.7
合 計		83.5

● 2：環境美化事業 槌子町会環境美花「花いっぱい運動」／槌子町会

【質疑応答（抜粋）】

Q：事業を2年間継続してきたことによって、どのような効果があったか。

A：町会でもさまざまな事業を行っているが、費用の使い方や役員の配置など、さまざまなことを見直しながら展開できているように思う。また、去年は花いっぱい事業の鉢植えに参加する町会の人も増えていて、それだけでも成功事例なのではないかと考えている。成功事例を伝えることも一つの成果であり、このようなプレゼンの場などで伝えていきたい。

Q：宿根草とか多年草を植えたりし、秋になると一旦プランターを回収して土をおこす作業をやっているようだが、管理や花を植えるレイアウトはどのようにするのか。

A：町会の中心に集会所があり、今まで雑草地で、通路から見える部分も雑草だけだった。その一部に花壇を二面作り、通路沿いや花壇周りにチューリップを植え、徐々に増やしていく予定になっている。また、花壇には芝桜を植え、来年の春には「槌子」の文字がうつすらと現れる予定である。町会にある交差点の花壇などに宿根草や多年草の花を植えることは、管理等の観点から難しいと考えている。

【主な意見】

- ・昨年事業に利用したプランターなどを再利用するなど、使えるものは使って経費を削減する努力が見られ、また、20代30代の若い世代が参加していて、非常に素晴らしいと思う。
- ・花いっぱい運動は人手が必要で、花を育てていくのに時間がかかるため、人のつながりを作りながらもっと広まってほしい。

- ・継続事業において、前年と同じことをすることも大事なことだが、事業を継続するうえでどんどん新しいことが出てくる必要があると思う。このようなことを増やしたという提案が出てくると、継続されている意味がもっと見えてくるように感じる。

【採択結果】

合計点 84.2 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.8
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	8.1
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	8.1
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	7.3
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	8.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	8.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.5
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	9.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.1
合 計		84.2

3月20日審査結果（22事業のうち4事業）

採択とする事業 4事業

不採択とする事業 0事業

平成25年度第5回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（2日目）

日 時：平成26年3月21日（金・祝）

午前9時～午後5時25分

場 所：弘前市役所新館2階大会議室

出席者：審査委員 檜楨委員長、鴻野委員、齋藤（秀）委員（事業番号7欠席）、
齋藤（き）委員、西川委員、小友委員（事業番号5欠席）、高森委員、
木田多委員、清藤委員、木田直委員、工藤委員（事業番号17欠席）、
宮川委員、長内委員、小林委員 ※1名欠席
市民協働政策課 櫻田課長、三上補佐、白戸主幹、工藤係長、對馬主査、佐藤主事、
阿保主事

1 公開プレゼンテーション・審査会

3月20日に引き続き審査

《審査内容》

- 17： 野外活動で活用できる外傷セミナー・こどもの緊急講習会／特定非営利活動法人
津軽広域救急支援機構

【質疑応答（抜粋）】

Q：子どもが遊んでいて命にかかわるようなことになった時に、対応できることはすごく意味のあることだと思うが、子どもたちをどのような形で講習に入れていくのか。また、学習の現場との間をつなぐことを、どのような対象者に対しどう行うのか。

A：対象者は、主に養護教諭などだが、実際は、幼稚園・保育所の保母・保父さん、アレルギーを持っている子どものお母さんが主に来ている。実際に子どもたちを預かる人たちに対し、事故が起きた時に救急車が何分で来るか、救急車が来るまでの対処法を理解してもらう内容で、子ども会が絡んで動いている場面で事故があった時の対処法をメインとして考えており、子ども自体に教える段階までは進んでいない。

Q：このような講習は、中学生も対象に含めてはどうか。

A：5年程前から中学校の教育プログラムの中に、BLS、一時救命の心臓マッサージが入るようになっており、中学校・高校では、消防による講習がすでにある。大人でも子どもでも、繰り返し年に1回くらいは講習を受けなければ順番やパターンを忘れるため、体に覚えてもらうように、講習では、実技を必ずやるということが基本になっている。

Q：補助金を申請する時期を平成30年までとしているのはなぜか。

A：この事業は、本来であれば、行政と医師会がメインになってやらなければならない事

業と考えている。行政（市や県）が自分たちで事業化できるノウハウを残すことが私達団体の役割で、行政体とか、医師会とかの連合体で動けるようになるまでという思いで6年という期間を設定した。

【主な意見】

- ・市民に救急対応等の知識を普及し、安全安心のまちづくりを推進するという形で、効果のある事業だと思う。
- ・消防の講習会では、メインがAEDの操作なので、外傷や蜂に刺された時などの対処法を求めている人も多いと思うため、今後も継続して実施してほしい。
- ・事業を実施する際の保険の加入に関して、万が一事故が起こった場合に、会場内に対応できる医師等がいると思うが、不測の事態が起きた場合の補償を考えると、加入した方がいいと思う。

【採択結果】

合計点 94.2点 \geq 60.0点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.5
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	9.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	10.0
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	8.8
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	9.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	9.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	9.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	10.0
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	9.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	10.0
合計		94.2

● 21：大仏公園紫陽花まつり／石川町会

【質疑応答（抜粋）】

Q：弘南電鉄とタイアップしての活性化について、どのように考えているか。

A：今までは、「紫陽花まつり」を大々的に宣伝したことはないが、少しでも皆さんに紫陽花を見ていただきたい思いから、町会独自で手作りのポスターを作成し掲示していた。電車を利用すると、中央弘前駅から石川駅までは20分ほどで、子どもたちにとっては楽しい

時間になると思うので、これからは、電車を利用した遠足の間として活用してもらうため、近隣の方々をお願いしていくことを考えている。

Q：弘南電鉄とのタイアップで、ポスター掲示等の広報による相乗効果だけではなく、弘南鉄道を利用して大仏公園に行った場合に特典があるような仕組みは考えているか。

A：弘前市内のさくらまつり等、去年だと菊と紅葉まつりの時に、1,000円とか1,500円で電車賃も含まれて温泉にも入れてお土産も貰えるという企画があった。これから交渉していろいろ企画してみたいと考えている。

Q：大仏公園は、石川町会のもので貴重な資源であるという、その感覚がとても大事だが、そのことが一時的なものにならないように将来につないでいけるか。

A：大仏公園の管理は市が行っているが、町会民は市のものだという気持ちではなく、石川町会で大事にしていかなければならないという思いでいる。紫陽花も市で管理しているが、剪定等は市と町会役員で分担して行っている。また、毎年4月から10月まで月3回、町会役員が見回りやごみ拾いを実施している。

【主な意見】

- ・先祖代々の自分たちの財産を守るという意識から、地域一丸となって整備していることは非常に意味のあることなので、紫陽花まつりの期間だけではなく、それに続く色んな仕掛けがあれば、もっともっと大仏公園の活用につながっていくと思う。
- ・写真コンテストをやるのであれば、次年度のポスターに賞をとった写真を使用するなど、次につながる仕掛けを考えていくと、発展性があると思う。
- ・公園の管理について、隣保班で行うとか、清掃をやりながら井戸端会議をするというような機会を設けるなどの工夫がなければ、地元の思いとは裏腹に管理する力が無くなっていくことも考えられる。外に向けて大仏公園をPRしていくと同時に、町会内では、若い人の参加や隣保のつながりを深めていくことも大事だと思う。

【採択結果】

合計点 87.9点 \geq 60.0点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員14名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.2
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	8.9
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	8.6
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	7.9
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	8.9
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	9.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	8.9
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.2
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	9.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.9
合 計		87.9

● 14：乳井地区内放棄地の環境整備と美化活動／乳井町おこし協力会

【質疑応答（抜粋）】

Q：事業を始めて3年になるが、外部の人はどのくらい茶臼館に来ているか。

A：1年目の事業終了後から、足を運んでくれる人が出てきた。乳井に関係がある人のほか、前から乳井に興味を持っていたという人たちがぽつぽつと来ていて、何百人とまではいっていないが、非常に知られてきている。もっともっとPRしていきたい。

Q：ホテルの観察会とあるが、夏にどのくらいホテルを見ることができるか。

A：ホテルが生息している池はずっと奥まっており、車で行くには大変な場所になっているが、高速道路の脇にも若干生息してきているので、今回は両方の場所に子供たちを連れて行きたいと思っている。田んぼの中を飛んでいるホテルは非常にきれいで、子どもたちも喜ぶし、夜の夜景もきれいな場所なので、道路の整備を進めていきたい。

Q：協力会というと、町会だけではなく他の関係団体が入るようなイメージを持つが、乳井町会として事業を行うのではなく、協力会という組織を作って実施する意味は何か。今後の組織としての永続性・持続性について、今の課題が解決したら解散するようなイメージなのか。

A：基本的には継続していく方向で考えている。私が3年前に団体を立ち上げた時に、町会長ではなく役員だったこともあり、まずは賛同者を集めて、周りを引っ張っていきこうと立ち上げた。今は町会の役員が半数くらい関わっているが、いずれは町会民全員が関わられるように動いている段階にある。少しずつ、徐々にやっていく気持ちにみんながなってきていて、まちおこしも平成26年度のテーマに挙げている。この事業のおかげで、乳井町会は活気づいており、自分たちでやろうという気構えに発展したのは大収穫だった。

【主な意見】

- ・まちおこし協力会という形が非常に面白い。今まで町会活動に出て来ていない人達も巻き込んだ町会活動が実質的にできてくるのではないかという意味で、この協力会の組織は面白く、もっとこれをパワーアップさせていけばいいと思う。
- ・ハード系の整備などは結果がすぐに見えるので、人も集まりやすく、また、この事業だけではなく色んなことに波及する可能性があると思う。
- ・その場所に合った桜を植えることはいいと思うが、管理をしっかりしていただき、里山の環境を整備した後も、荒れないように保護をしていただきたい。
- ・環境などのハードの整備によって住民の気持ちに変化が生じ、自発性、ソフト面の自立にもつながっているという双発のまちづくりという活動がどんどん連鎖していくような町会の状態になっている。

【採択結果】

合計点 87.9 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.9
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	7.1
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	9.6
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	7.9
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	9.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.9
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	8.9
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	9.3
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	9.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	9.3
合計		87.9

● 7：環境教育用だんぶり池下敷き作成活用事業／ひろさき環境パートナーシップ 2 1

【質疑応答（抜粋）】

Q：だんぶり池について知りたい。

A：もともとは山の中の棚田で、休耕田になってから完全に放置されていた。柳が生えてしまっている荒地だったが、地形的に見て、四国の四万十のトンボ王国と同じようなことができそうだと考えていた場所だったため、弘前市に買い上げてもらった。環境基本計画を作った当時は環境保護という言葉が全盛だったが、私たちは自然保護ではなく、むしろ失った自然を取り戻す活動の方がこれから大事になる、まずそのことを環境基本計画の

中で謳って実践して見せるため、きれいな水、きれいな土、水と草と林、これを一つのセットにしてものを考えていくことで、失った自然も取り戻せるんだということを実際にやってみせることがだんぶり池の一番の狙いで、私達市民のボランティア活動によってできたもので、現在は面積が5反歩ある。

Q：下敷きに掲載する内容はどのようなものか。

A：だんぶり池の生き物たちのつながりがわかるものや、危険な生き物がわかるような内容を検討している。

【主な意見】

- ・身近なところで環境もだんだん変わってきている中、教育的な活動を次世代の子どもたちに行っていることは、非常に素晴らしいことだと思う。どんどんこういうことを小学生の学習に取り入れて欲しいため、配付対象に低学年を取り入れてもいいのではないかな。
- ・だんぶり池で進めてきたことを広く伝えることで興味を持ってもらい、今後の活動への参加につなげたいという広報活動であり、長く活動を続けて欲しいという意味では、もっと費用が発生してもいいのかもしれない。
- ・事業を実施する際は、できる限り市内の業者を利用していただきたい。

【採択結果】

合計点 88.5 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点（齋藤（秀）委員は審査から外れる。）

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.3
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	8.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	8.8
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	7.7
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	8.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	9.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	9.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	9.2
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	9.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	9.6
合計		88.5

●5：岩木山環状線（ネックレスロード）街路樹の手入れと宮沢賢治の旅を訪ねて

／岩木山桜会議

【質疑応答（抜粋）】

Q：街路樹の手入れは、道路を管理する行政が行っているのではないか。

A：県の道路施設課で管理することになっており、手入れの要望をしているが、なかなか街路樹の管理までは手が回らないという回答があり、私達団体が活動して手入れを行っている。

Q：事業内容について、ボランティア活動だけではなく、ワークとカルチャーの2つを重ねているのは、参加者を増やしたいという意図からか。

A：時間的には半々くらいで、ワークとカルチャーと、ある意味では郷土というものが共通している。郷土愛をどう育んでいくかということも一つのテーマになっている。

Q：今後もこの活動を細く長く行って欲しいと思うが、来年度以降の財源をどのように工面する予定か。

A：当団体の会員は100名近くいるが、会費のほとんどは、会報やHPの作成費などに使われており、助成金等の収入がなければ街路樹の管理活動ができない状況であるため、いろいろな助成制度を活用しながら続けていきたい。

【主な意見】

- ・参加者が、労力と参加費を提供する事業であるのに、何十人も集まることはすごいと思う。そういう意味で応援したいし、市民力アップを支えるということにつながると思う。
- ・本来行政が行うべき所を市民が整備していくことについて、疑問を持つ部分もあるが、イベント性を持たせながら細く長く整備していく活動もまちづくりの一環であり、今後、後世の若い人たちにつながっていくということも大事なことのひとつであると思う。
- ・継続することは大変だが、各方面に働きかけながら続けてもらうしかないと思う。整備が必要な場所を放っておけば荒れ放題になってしまうので、毎年やらなければいけない。そういう意味で、ボランティア活動だけではなく、楽しめる要素を組み入れた内容の方がいいと思う。

【採択結果】

合計点 74.2 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点（小友委員は審査から外れる。）

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.3
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	6.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	6.5
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	5.8
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	8.1
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	7.7
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.3
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	8.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.1
合 計		74.2

● 18 : 世界一の桜並木道をノルディック・ウォーク

／公益財団法人青森県体育協会岩木青少年スポーツセンター

【質疑応答（抜粋）】

Q : 青少年スポーツセンターとして活動はできるようになっているが、活動を広くPRするための財源が無いので申請をしたのか。事業を継続していく中で、必要性の優先順位を上げて、岩木青少年スポーツセンターの単独事業としていく動きを考えているか。

A : 今年も広報に必要なチラシやマップを作って観光協会や店舗に置く予定である。ホームページからもダウンロードができるので、たくさんの人に手に取ってもらい嶽地区を訪れてほしいと考えている。地域の発展なくしてスポーツセンターの発展は無いので、地域一体となって人を呼び込むための一つのツールとしての事業と考えている。桜並木や嶽キミなど地域の資源がいっぱいある地域なので、年間を通して嶽地区に人を呼びこむ、併せて市民の健康につなげたいという夢を持っている。

Q : 短命地域返上の一つの主体として参画し、弘前の中で実施するのか。

A : 気持ちとしてはまず市民の健康、歩くことによって日頃から自分の健康に少し注意をして、その結果が短命県の返上につながればと考えている。短命県返上のためにノルディック・ウォークをやりたいという高い望みではない。

Q : 来年も実施するか。まちづくり1%システム補助金の申請はしないということだが、来年は協賛金や参加料の増加は見込めるか。

A : 事業は実施する予定で、参加料を上げることは考えているが、今年どの程度参加者が集まるかで検討したい。

Q：前は参加者が100名ということだが、どの地域からの参加者か。

A：弘前市内が多く、平川市、青森市、県外からの参加も数名あった。将来的には県外からの参加者をもっと増やしたい。

【主な意見】

- ・県の名称がつく団体から、まちづくり1%システム補助金に応募があったのは初めてのケースで、事業内容は市民が利益を享受できるものであるとは確認できるが判断がむずかしい。
- ・県の施設ではあるが、弘前市にある施設なので、弘前でちょっと後押ししてあげてもいいのではないかと思う。
- ・実際に歩くことは健康づくりにつながるし、岩木周辺の資源を使いながらという部分がすごくいいことだと思う。
- ・参加者を募集する事業の場合、広告料がかかることは理解するが、弘前記者会に情報を提供するなど、経費を使わない方法も検討していただきたい。

【採択結果】

合計点 65.7 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択（申請額どおり）

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.4
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	5.7
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	6.4
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	5.7
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	6.4
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.9
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	8.6
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.9
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	5.7
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	3.9
合計		65.7

● 19：若葉町会納涼祭り／若葉町会

【質疑応答（抜粋）】

Q：今年のまつりのコンセプトは子どもが参加しやすいとあるが、アトラクションの他に子どもたちが楽しめるような工夫はあるのか。

A：夏休みにラジオ体操あり、その参加賞として夏祭りに参加する参加券（金券）を発行

し、その参加券を祭りで使ってもらうことで、参加しやすくするような方法を考えている。今までも、ジュースやおかし、くじ引きなどの模擬店を出しているの、たくさん子どもたちに参加してもらいたい。

Q：子どもの参加を増やそうという目的は伝わるが、まちづくり1%システムに申請することによって、若葉町会納涼まつりにどのような意味を持たせようしているのか。

A：当町会の近辺では、ねふた祭りに参加している町会や、同じ時期に納涼祭という花火を打ち上げる町会もあって、開催日が重なったりすることで人出が足りない時もあるため、高校生や中学生、小学生でもいいので、まつりの準備段階から参加してもらうことよって、家庭での会話が増えれば良いという意図もあるし、最近、塾に通ったり、スポーツ少年団の活動で忙しい子どもたちも多くなってきているので、参加したくなるまつりにしたいということもある。

Q：申請書に記載のある「子ども会組織がないので、子ども会として町会活動に協力できる体制づくりに発展できれば」という部分について、今までの取り組みなどを説明してほしい。

A：冬休みに、もちつき大会やクリスマスケーキ作りなどを小さい子どもたちを対象にやっているが、年々参加者が少なくなってきている。現在担当している委員からは、自分たちに小さい子どもいないから参加してもらう方法がわからない、小さい子どものいる若い世代が担ってくれれば良いという意見が出ているがなかなか実現までには至っていない。これからは、若い親御さんと子どもたちを中心にした行事にしていきたいと思っている。

Q：若葉町会の周りには、児童センターや子どもたちが集まる施設など、拠点になる場所というのはあるか。

A：若葉町会にはない。歩いて15分～20分の距離の所に桔梗会館があるが、歩いて行くには少し遠いため、集会所を児童館のようにして欲しいをという要望もあったが、事故が起きた場合の責任問題を考えると町会としても実施できない状況にある。

【主な意見】

- ・子どもは私達が考えている以上にいろんな形でつながっているの、主体性をもたせてイベント等の協力をしてもらいながら、参加者を増やしていただきたい。うまくつながっていけば、子供会組織作りのためにもなると思う。
- ・なかなか人が集まらない状況でも、最初に有志が立ち上がって続けている祭りが、町会に引き継がれたという事は評価していいと思う。アトラクションが未定な部分は引っかかるが、結論としてはそういう状況の中でもやる事が市民参加、まちづくりという趣旨としてはあっていると思うし、その火は消してほしくない。
- ・非常に大変な状況の中で、何らかの活性化を図りたいと思い、まちづくり1%システムに申請することで、課題を町会民に提起して、若葉町会を次の世代に残したいという感じを受けた。

【採択結果】

合計点 78.9 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.8
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	6.1
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	9.6
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	8.2
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	7.9
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	8.6
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.8
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	8.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.2
合計		78.9

● 10：いちごで笑顔家族・地域お楽しみ事業／三省地区いちごわくわくクラブ

【質疑応答（抜粋）】

Q：補助金の申請額はほとんどがいちごの栽培に係る費用だが、栽培後に地域の人たちがいちごを食べる事が目的であれば、本制度への申請に違和感を覚えるが、このことについてどう考えるか。

A：最終的には口に入るが、子どもたちが植物を育てるという教育の一環として考えており、将来的にいちご農家が生まれてもいいのではないかと思っている。地域で、いちごを通して、ただ食べるのではなく、いちごを通してのガヤガヤ騒いでいるうちに、何かいいものが生まれる可能性、それが実行に移るのではないかという期待をしている。

Q：三省地区の広域で行う理由は何か。もっと身近な町会単位から始めることは考えなかったか。

A：町会活動を行う人出が不足している中、1町会ではやることのできない行事を、交流センターを拠点に、5町会でねふたや盆踊りなど様々な行事を行っている。上大川でも38戸、下大川は39戸しかなく、1町会で何かを行うことがなかなかできない現状にある。

Q：三省地区は、三省SUN太陽（サン）フェスティバルの行事で、地区のお母さんたちが協力していると思うが、連携はあるのか。

A：連携はあり、町会長と町会の三役を含め、推進協議会を作っている。推進協議会では、大体の行事を計画し、実行に移している。行事を実施する時は、地域の関係機関の協力を得ながら行っている。

【主な意見】

- ・地域の子どもたちを巻き込んで栽培することも検討していただきたい。
- ・農家の多い地区で、子どもたちが農業に親しむ機会を作るという教育の意味も入っていて、将来的にいちご農家になりたいという方向になることもいいのではないか。この地区ならではの発想や可能性があると思う。
- ・地域を元気にしたいという気持ちから、子どもたちが興味を持ついちごを題材とすることによって、家族が会話する場面が増えることを期待して応募した事業だと思う。

【採択結果】

合計点 66.8 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	5.4
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	5.7
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	8.2
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	5.7
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	6.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	7.9
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.8
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	6.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	5.4
合計		66.8

● 3：宴の後は地球に戻そうプロジェクト事業

／特定非営利活動法人 もったいないつがるの会

【質疑応答（抜粋）】

Q：他の団体等と連携して活動するほうが効果のでる活動だと思うが、いろいろ働きかけをしたにも関わらず、一緒に活動する団体がいない理由は何か。

A：県の事業で実施した約400人の保護者のアンケートによると、各市や県などが、広報活動を行っているが、コンポスト自体ほとんど知られていないということと、自分の家でやるとなると臭いが気になるということが挙げられていた。今回は、臭いが気にならない場所にある「つくしの家」を提案した。

Q：事業内容にある、さくらまつりの生ごみ回収の方法について説明して欲しい。

A：30人以上で宴会をやる団体ということで募集をかけ、宴会をやる場所と時間を聞き、

県の環境政策課で作ったシールを張ったゴミ袋を渡し、宴会終了後にゴミ袋を回収する。宴会に50人いる場合、50人の前で幹事に袋を渡すことで今回の事業が50人に伝わることになる。

Q：消耗品費・原材料費に計上されている、生ごみ堆肥化に係る材料の数量は、どのくらいの生ごみの料を想定しているか。

A：今年目標は1万tで、1万人に協力してもらおうと考えている。1万tの生ごみからできる堆肥は100kg。

Q：今回で3回目の申請で、生ごみを地球に戻そうという発想はわかるが、今まで申請のあった事業を並べた時に、面になっていくイメージにつながらないため、これまでの3年間の動きを知りたい。

A：最初から、生ごみを堆肥化するだけ、生ごみ減らそうというだけではこの運動は続かない。市販の野菜のうち、農薬を使っていない有機野菜は2%しかなく、現にEUよりもはるかに基準を緩和して農薬を進めている節があることに危機感を持っているため、生ごみ堆肥で有機野菜を作った。2回目はフォーラムを開催した。3回目は、有料で参加する施設があったため、譲られた1tの堆肥で大根を作り、それを介護施設や保育園で食べてもらった。素晴らしいものだという意見もあり、そういう農業を広めて行きたいと考えている。目標とするのは山形県の長井市で、5,000世帯が生ごみを堆肥化するのに、10年間分別回収に協力している。弘前でも、5千世帯、1万世帯と広めていきたい。

【主な意見】

- ・本当に宴会でごみの処理ができるのかなど、手法に問題がある。予定の量のごみ分解に係る経費が計上されているが、ごみが集まらなかった場合、事業が中止になることが考えられ、趣旨は悪くはないが、内容に疑問が残る。
- ・ごみを減らそう、もっと環境に配慮しようという啓蒙活動を最初から続けていることは評価が出来る。提案のある事業は、新規という形になっているが、弘前は生ごみを燃やす量が多く、3年前からごみの軽量化のため何かしなければいけないという意味の啓蒙だと思う。
- ・継続事業なのか新規事業なのかが非常に微妙で、介護施設の関係などつながっているところもあり、ゴミの問題として継続していることは評価できる。

【採択結果】

合計点 44.6 点 < 60.0 点 ⇒ 不採択

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	5.0
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	5.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	7.5
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	6.1
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	3.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	3.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	4.6
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	5.4
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	2.9
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	1.8
合 計		44.6

3月21日審査結果 (22事業のうち9事業)

採択とする事業 8事業

不採択とする事業 1事業

平成25年度第5回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（3日目）

日 時：平成26年3月22日（土）

午前9時～午後5時

場 所：弘前市役所新館2階大会議室

出席者：審査委員 檜楨委員長、島委員、鴻野委員（事業番号9、13欠席）、
齊藤（き）委員、西川委員、小友委員、高森委員、木田多委員、
清藤委員、木田直委員、工藤委員（事業番号1欠席）、
宮川委員（事業番号13欠席）、長内委員、小林委員 ※1名欠席
市民協働政策課 櫻田課長、三上補佐、白戸主幹、工藤係長、對馬主査、佐藤主事、
阿保主事

1 公開プレゼンテーション・審査会

3月20日・21日に引き続き審査

《審査内容》

- 1：市民健康増進事業「第3回 津軽岩木スカイラインを歩いてみよう会」

／弘前歩こう会

【質疑応答（抜粋）】

Q：県外からの参加者は多いか。また、県外からの参加者でリピーターの人はいるか。

A：1回目は県外から6名、去年は9名、今年には既に10名ほど県外からの申込みがあるので、二桁超えると思う。過去にはベトナムの留学生の参加もあった。過去2年間のリピーターは35%くらいで、約7割は、新しく申し込まれる人になっている。

Q：弘前歩こう会以外に、同じような活動をしている団体との横のつながりについて、どのように考えているか。連携しながらやっていく可能性のような部分についてはどうか。参加者の現場での声や、他の団体とのつながりがあれば教えてほしい。

A：他団体との関係だが、これまで2回、日本ウォーキング協会へ登録申請しており、青森県ウォーキング協会という県内まとめ役のところへ報告している。そのほか県に12のウォーキングクラブがあり、すべてのクラブに案内を出している。また、岩木山に関係する桜の会をはじめ4つの岩木山をとりまく団体や勤労者山岳会、県内の登山山岳団体3団体に事業の実施について周知をしていく中で、1回目だけ、勤労者山岳会のメンバーにサポーター役として同行してもらったこともある。それを受けて去年、高校の山岳部12名に参加してもらった。これからも他団体との横の連携については進めていきたい、広がりを持ちたいと思っている。

Q：スカイラインは普段は車でしか通ることができない場所であるため、歩くことによっ

て、今まで見えなかったことが見えてくる部分があるのではないかと思うが、道路を歩くことで得られるスカイラインに関する環境や情報が入るような形についてどう考えるか。

A：過去2回の経験を活かし、ホームページ等を介するなどして、新たな展開を検討していきたいと思う。

Q：スカイラインの管理をしているところとのつながりはあるか。また、スカイライン株式会社の年間行事の中で、この事業は大事であると見てよいか。

A：当日、車の通行止をすることによって、営業にどれだけ影響が出るか、それを採算性から見てどうかというようなこと、その事前の周知をどうするといったことがすべてスカイライン株式会社の担当となり、会社の協力なくしてこの事業は成り立たないため、細かい点も打ち合わせし、安全面等も含め十分詰めている。事業自体は、大変評価をいただいております。スカイラインのHPにも正式行事として昨年から登録してもらっている。開催日が近くなれば、スカイラインの方にも問い合わせが入っている。

【主な意見】

- ・全国的にも珍しい事業であり、この事業によって、津軽弘前が全国的に発信されることは素晴らしいと思う。
- ・予算面で、参加費を事前納付としているが、事業が中止になった場合の対応も考えられており評価できる。ドキュメンタリーのような番組として、テレビで全国放送されるような機会があれば、また違った意味で評価が増してくるのではないかと思う。
- ・弘前も健康マイレージや健康リーダーなど短命県返上のために取り組んでいることから、スカイラインを歩くという新たな目線が、健康面に関する取り組みに対する一助になっていくと思う。
- ・補助金からの自立がどこまでできるかという問題はあるが、事前の告知のチラシや、完歩したあとの完歩証などに協賛団体のコマーシャルを載せるなど、協賛金を集めたり、物品で協賛してもらおうなど、多少なりとも協賛を得ようとする努力が見えると、もっと賛成できる。
- ・ウォーキング活動には、もちろん健康づくりという要素はあるが、参加者からの、ある種のスカイラインに関する環境とか情報を取ってもらうなど、健康づくりの他に、新たな役割がないかということぜひ探っていただきたい。

【採択結果】

合計点 92.3点 \geq 60.0点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	9.6
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	9.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	8.1
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	8.5
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	10.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	9.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	8.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	9.6
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	9.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	9.6
合 計		92.3

● 11：湯口交差点「花いっぱい運動」／JA 相馬村女性部

【質疑応答（抜粋）】

Q：今年はどのような花を育てる予定か。

A：地区に花を作っている人がいるので、昨年と同じ花を植える。

Q：老人クラブは、どのような作業に協力しているか。

A：主に草取り作業をお願いした。

Q：水やりや手入れ作業に、自主的に地域住民が参加するという流れは出ているか。

A：作業は、主に JA 女性部で行っていた。小学生とかにもお願いしたいが、花の設置箇所は車の往来が激しく、事故を考えるととても小学生にお願いすることができなかった。地域住民を巻き込んだ活動にしたいが、相馬で唯一の交差点であるため、なかなか思うように進んでいない。

Q：保険料について、一般的な保険会社が見積もったものだと思うが、昨年の実績と比較しても高い金額になっている。農協の保険や、イベント保険など他に探してみたか。

A：農協ではイベント保険には該当しないと言われ、傷害保険を探したが、参加者の名簿の提出が必要な保険しかなかった。作業状況から、事前に参加者の名簿を提出することが難しいため、今年は無記名でも加入できる保険があったので、その保険で予算を組んでみたが、これから他の安い保険も検討する。

Q：JA 相馬村では、花いっぱい運動の活動資金を出すことができないか。

A：女性部に出している活動費から捻出して欲しいということだった。女性部への活動

費と、会員の皆さんの会費では全部を賄えないため、まちづくり1%システムをお願いして活動している。

【主な意見】

- ・花のある通りは、心が癒されたり環境美化ということもあり継続していただきたいが、管理が大変で、JA相馬村女性部の頑張っている様子も伝わる。今後は横とのつながりを大事に、連携して活動できるような体制づくりを目指して、地域住民やJA相馬村全体で管理できるよう、花を主軸に、活動自体をもっと横に広めていければいいと思う。
- ・花の水やりなど管理に苦勞していることもわかるが、それが永続的になっていく為には、どうしていくかという議論や、地域を変えるという動きが必要だと思うので、花いっぱい運動そのものを維持することだけではなく、この運動が入口となって、広がっていくことに期待したい。
- ・下湯口出身のマンガ家が、弘前市を舞台に描いており、弘前の街並みもマンガの中に出てきているので、これから先、全国からいろんな人が来る場所になる可能性がある。明るい雰囲気を出すためにもどんどん取り組んでいただきたい。
- ・事業を継続していくうえで、損害保険料の再検討や、プランターの再利用など、経費の節減に努めていただきたい。

【採択結果】

合計点 77.7 点 ≥ 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.7
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	6.9
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	8.5
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	7.7
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	7.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	7.7
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.5
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	7.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.3
合計		77.7

- 16 : 音楽の祭日 in 弘前 (Fête de la Musique à Hirosaki) / 音楽の祭日実行委員会
【質疑応答 (抜粋)】

Q：現在弘前市で毎年行われている弘前市音楽祭やまちかど音楽祭が開催されていることを知っているか。また、自費でも実施したいという事だが負担はできるか。

A：弘前の音楽祭は知っている。その上でこの事業を実施する理由は、フランス関連で何かやってみたいということと、弘前の音楽祭の規模の問題というような話ではなく、私達学生がもっと中心に入って行けるような成長型のものをやりたいと思い、まずは実施すること自体が重要だと考えた。もし事業が採択されなかった場合は、規模を縮小することにはなるが、小さくても成長型音楽祭の第1回目として自費で実施したい。

Q：最終的には、市内外の人を巻き込んだイベントを創出したいという話があったが、広報であったり、人集めであったり、具体的な手法としてどのようにステップアップしていくのか。

A：継続していくうえで、とても重要な問題で、現在は3年ほどの計画を立てているが、今年は弘大学生とその周辺の人でしかできないのではないのかと懸念している。その理由は、認知度が足りないからだが、そのことも含めてこの第1回目を実施するというところに大きい意味があると思う。そして2回目の時点では、青森県全体を含んでいくことを考えており、個人的に県外の方々とも交流があるので、その方々を呼ぶことで収入につなげていくなど、横に広げていきたい。そして3年目で、大学を通じ、留学生などを通じて、外国からもというように、もっと大きなものにしていきたい。また、現在の構成員は、来年度の新4年生が5名、3年生が1名、2年が7名となっており、継続に関しては、現在の1年生が、大きくかかわっていることから、マニュアルのようなものも作っており、3年ほどの見通しはたっている。

Q：開催日を6月21日にした理由は何か。

A：フランス本国で夏至の日になっていることと、土曜日は人が集まりやすいと思い設定した。

Q：イベント当日は、どのようにして弘前とフランスの関わりを表現するのか。

A：弘前市内には、フランス料理やシードルといった関連するものが沢山あり、そのお店の方々に出店していただくことによって、フランスとの関連性を出したり、看板や旗などで街なかにフランス色を出すことによって、イベントとフランスの関係をアピールしたい。

Q：音楽にフランスがないと結びつかないと思うがどう考えるか。

A：難しい問題だが、音楽のジャンルをフランス音楽のみに限ってしまうと、イベントとして面白くなくなってしまう気がするため、検討したうえで、出演団体にもお願いしたい。

【主な意見】

- ・弘前では、毎年、音楽祭が開催されているが、クラシック系に偏っている部分もあるため、例えば仙クラのような、ジャンルを問わず1か月にわたって町中で音楽が鳴っているようなことができればという希望はある。もう一つは、大学生、その下の高校生や中学生などをどう巻き込んだ活動をしていくかということが課題としてある中で、

大学生が市全体のことに手を挙げてくれたことはうれしい。実行面でいろいろ課題が多いと思うが、少しずつ克服し自分達の形にしていって、それが弘前市全体のイベントへと成長してほしいと思う。

- ・音楽だけではなく、料理などフランス文化を弘前が受け入れた事例や、逆にフランスが弘前の文化を受け入れた事例などを組み込みながら、弘前とフランスの関係をもう少し強調するような、すでに文化交流のベースがあるような理由をもう少し考えたほうが良いと思う。
- ・自分たちの能力を発表する場が欲しくて参加する団体もあると思うため、参加団体から参加料を徴収することで、団体の負担を軽減する方法もある。ぜひイベントを実現してもらいたいため、予算の面でももう少し検討する余地があると思う。
- ・開催予定日である6月21日は、古都弘前花火集いの日で、人出に影響が出ないか懸念されるため、日程の変更を検討していただきたい。

【採択結果】

合計点 61.8 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.8
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	6.4
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	5.0
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	5.7
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	5.4
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.1
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	6.4
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.1
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	5.4
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.5
合計		61.8

● 12 : コミュニティシネマ事業「harappa 映画館」/NPO 法人 harappa

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 過去の集客の推移について教えて欲しい。

A : 今までは50人平均で、集客については課題として捉えているが、どうやったらたくさんの人にアピールでき、たくさんの人に来てもらえるかを検討しながら、50名から60名、60名から70名と増やしていきたい。

Q：当初予算で協賛金の収入を見込んでいないが、協賛金等の収入を得られるようにアクションを起こしているか。

A：作品を上映する前の予告編を自分達で作成し、その中に協賛者のキャッチコピーを入れて、この方々に協賛をいただいたということで流している。例えば、郷土料理なになに、愛と人権のなになに法律事務所など、1社から1万円という形をとっている。

Q：映画が好きな人は、スクリーンで見ることにこだわっている人が多いため、そういう機会の創出という意味ではいい事業だと思うが、補助金の交付を受けるのであれば、もう少し自助努力が必要だと思う。事業の趣旨として、街に人を対流させ、街のにぎやかさを創出させたいということがあるのであれば、集客についても少し努力が必要だと思うが、その点についてはどう考えているか。

A：現在、施策を練っており、たくさんの人が興味をもつような映画の上映を考えている。それは音楽映画で、幅広い方々に対し、1本ではなく3本くらい用意して、中高生も喜ぶ、声楽の方も喜ぶような作品を考えている。

【主な意見】

- ・市民税を使う意義とすれば 映画を見た人にとって道徳の教育の1つになるということだと思う。たくさんの人に支持を得られなくなり映画館が閉館している中、市の補助金を活用しながら、本来スクリーンで見ることのできない映画を見ることができる場所として存在することは、とても大事なことであり、そういった意味でこの灯は消さずに継続すべきもので、それを営利団体がやるのではなく、市民皆で支える形で続けていくことに意味があると思う。
- ・補助金も永久にある訳ではないため、映画を大事に思っている人の事業としてではなくこの活動にどのような広がりを持たせていくのかというところがポイントであり、映画館ができるまでの機能というか、可能性のようなものを改めて確認しながら、映画をどういう形であれば維持していけるか検討していただきたい。
- ・弘前近辺の映画館の上映状況は、地域の集会所や公民館に映画が回ってきて見に行っていた60～70年前に戻ってきている。今後は、更に定番化した事業として残していくのか、あるいはバージョンアップする事業としていくのかを考えていただき、中心商店街の活性化という面でも、他団体のサポートであったり、事業の効果が別なところで発生する効果を狙うということなど、活性化につながる活動を期待している。

【採択結果】

合計点 66.4 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.4
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	4.6
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	6.8
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	6.4
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	7.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.9
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	6.4
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.1
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	7.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	5.7
合 計		66.4

● 15 : 第2回弘前城リレーマラソン／特定非営利活動法人 スポネット弘前

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 参加チームを増やす予定だが、会場として対応は可能か。

A : 去年の状況から判断すると大丈夫だと思う。配置を替えをしながら、スペースを作ることも考えている。

Q : 参加人数が増えることで、スタッフの数は足りるか。

A : 今年では 150 人のスタッフを目標に募集している。去年は当日参加のボランティアも多く、配慮が足りなかった点があったため、今年はこちらから出向いて、こういう思いでやるということを説明し、ボランティアの思いもひとつにして、ぜひ成功させたい。

Q : 第1回目が終わった後の評判がいいが、どのように受け取っているか。

A : 参加したチームからすごく楽しかったと言ってもらえたことは良かったが、大会当日だけが良かっただけでは足りないと思っている。今回のテーマとして健康増進があり、この大会をきっかけに健康づくりを広めていきたい。メンバーとして、健康増進リーダー2名に入ってもらい連携しながら、その時楽しかっただけではなく、継続的に弘前市民の、そして青森県内の健康増進に努めていきたい。

Q : 今回のテーマが短命県返上とあるが、どのような形で今後運営していくのか。

A : まずは気運を高めることが大事だと思う。弘前市は健康をテーマとした施策があるので、そのひとつとしてやっていきたい。具体的な内容は確定していない部分はまだあるので言えないが、例えば健康体力チェックができるブースを作り、体力測定をしてもらうだとか、いろいろやっていきたい。

Q：チームとしての参加が原則なのか。1人でも参加したい人を集めてチーム編成し、参加することはできないか。

A：去年、そのような声もあり検討したが、まだ大会自体が確立できていないため、実現に至っていない。チームを組めない人でも気軽に参加ということを考えると、将来的には実現したい。

【主な意見】

- ・健康というキーワードから走る人たちが増えてきている中、弘前公園に人を集めたいという側面も考えた公園の利活用も兼ねた事業で、参加者数も予想より多く、協賛も順調で、ボランティアもそろっているということを考えると、市民ひとりひとりが、団体それぞれが、自然に協力体制を築けており、ますます発展していく期待がもてる。
- ・青森県ではあおもり食命人育成事業があり、講習会を受けた人がたくさんいるため、短命県返上につながる活動として、そういったものとも連携しながら進めていくことも方法としてあると思う。
- ・弘前の中心で市民が走って、それが市民力の向上につながり、更にネットワークを作りながらなど、いろんな要素が凝縮されているすごい事業だと思う。代表的な市民対応のイベントになっていく可能性がある。

【採択結果】

合計点 93.6 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.9
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	9.6
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	8.6
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	8.9
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	10.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	9.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	10.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	9.3
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	9.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	9.3
合計		93.6

● 22 : レクリエーション公認指導者養成講座「弘前レクリエーションセミナー」
／特定非営利活動法人 ひろさきレクリエーション協会

【質疑応答（抜粋）】

Q : 地域に根差したリーダーを養成するということだが、地域を弘前の東西南北の地域と分割し、それぞれの地域でリーダーを養成するのか。それとも、弘前を1つの地域として不特定多数養成するのか。

A : リーダーの養成は、地区を限定せず、弘前全域から募集するが、養成されたリーダーには、住んでいる地域の中で活躍してもらいたい。

Q : 今までも事業を実施しており、外部講師を呼ばず自力で工夫されていたようだが、今回、東京の講師でなければならない理由を教えてください。

A : 講習会では、単発なものも含め、福祉の仕事に従事している人の参加が非常に多い。参加する理由として、レクリエーションで使える手段をひとつでも多く取得したいということがあり、全国にはレクリエーションのカリスマと言われる人がたくさんいるので、講師として来てもらいたいと思っている。

Q : 今まで講習会を修了した人は、学んだことをどのように実践しているか。

A : それぞれの職場で実践していたり、単発的に私達がイベントを開催する時にリーダーとして参加してもらっている。

Q : 現在弘前市では、公認のレクリエーション指導員は何人いるのか。

A : 40人いる。

【主な意見】

- ・レクリエーションという名の会議体を作り課題解決に向けて進めていくとか、レクリエーションリーダーに必要な情報システムを作るとか、もっとレクリエーションという中に周りを引きこんで行くような活動が必要だと思う。
- ・これから先、レクリエーション指導者は確かに必要になると思うし、養成する事業はあっていいと思うが、レクリエーション協会の本務と考えられ、当制度に提案した目的が明確に見えてこない。
- ・一度経験することで興味をもつということも多いため、レクリエーションを気軽に体験できる場の提供を交えながら、その後の育成へとつながればより効果があると考えられ、公認指導者の養成の前に、レクリエーションそのものを広めていくことが重要だと思う。

【採択結果】

合計点 37.1点 < 60.0点

審査項目① 事業の効果が特定の者に限定されない 2.5点 < 3.0点

審査項目⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている 2.9点 < 3.0点

審査項目⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる 1.4点 < 3.0点

⇒不採択

※審査委員 14名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	2.5
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	3.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	5.0
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	3.9
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	3.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	5.4
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	5.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	4.3
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	2.9
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	1.4
合計		37.1

●4：ミュージックキャンプひろさき2014／ミュージックキャンプひろさき実行委員会
【質疑応答（抜粋）】

Q：この事業では、吹奏楽の楽器だけを考えているか。

A：この先は弦楽器も考えている。今回の楽器の選定については、まずフルートが幅広くニーズがあること、それから、西澤先生のごことが念頭にありオーボエを選んだ。

Q：全ての楽器につなげていきたいという考えはわかるが、1年目がオーボエとフルートで、なぜどちらも木管なのか。弘前市内で、実際にオーボエを吹いている人は少ないと思うが、その中で選んだ理由は何か。

A：人数から考えれば、オーボエが最初ということは不思議に思うかもしれないが、弘前から輩出された逸材の方に、少しでも早く後輩の指導にあたってもらいたいと思った。

Q：プロを育てるということは、事業の効果が特定の者に限定されることにつながり、当制度の趣旨に合わないと思うが、本事業がまちづくりとどう関わると考えているか。

A：たくさんの方が楽器を始めるきっかけの創出につながる事業と考えている。その一方で、さらに上を目指したいという人のために、目標となる場を提供したいと考えている。進む道がわからないということが無いよう、進むべき道へのチャンスを作ってあげたい。

【主な意見】

・大事なことであるという意図は伝わるが、具体的な手法として、この方法でいいか疑問が残る部分がある。

- ・ワークショップのような形で、弘前の現状を積み上げていきながら進めることで、プロをどう育てるか、あるいは裾野をどう広げるかなど、戦略が見えてくるのではないかと。
- ・弘前でも様々な講習会が行われており、プロを目指すような人は、自分で参加したいと思う場所で学んでいることから、弘前にはチャンスがないということから弘前全体のニーズとして捉えることは違う気がする。

【採択結果】

合計点 27.1 点 < 60.0 点

審査項目① 事業の効果が特定の者に限定されない 0.7 点 < 3.0 点

審査項目② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている 1.8 点 < 3.0 点

審査項目⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である
2.5 点 < 3.0 点

審査項目⑨ ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている 1.8 点 < 3.0 点

審査項目⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果 1.4 点 < 3.0 点

⇒不採択

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	0.7
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	1.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	3.2
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	3.9
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	2.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	3.9
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	3.9
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	3.9
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	1.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	1.4
合計		27.1

● 13：青森スマートドライバー／青森スマートドライバー実行委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：最初にスマートドライバーと聞いた時は、めずらしい組織だと思ったが、過去2年実施して、交通安全運動としてどのくらい定着してきたか。

A：これまでの取り組みは、押さえつけるものではないため、数値による効果測定をしにくい部分があるが、ステッカーをいろんな場面やイベントで配布しており、市の公用車にも貼ってもらっている。年々、貼っている車を目にする機会も増え、ステッカーに

興味を持つ人もおり、確実に広がっていると感じている。

Q：申請書の中に、過去に弘前市内の運転マナーが悪いというブログがあったと書いてあったが、運転マナーが良くなったというブログは見たことはあるか。

A：感覚としてだが、県外の人にしてみれば、譲ってもらうことは当たり前で、運転マナーが良いと感じる人は少ないと思う。譲ってくれた凄いということはないかもしれないが、弘前市全体で、譲ることが当たり前になっていけばいいと思う。

Q：運転する人を対象に教える場面というのはあるのか。

A：食と産業まつりや地域安全フェスティバルなどで、数字の早押しゲームなどを行い、その場に来て待っている人達に、交通安全に対する啓蒙や、大事なことをスタッフが伝えている。

【主な意見】

- ・継続事業ということで、事業自体も定着しており、実際に安全運転は子どもたちにとって大切なことだと普及していつていることから、ドライバー同士だけではなく、縦のつながりとして家族の部分まで広がっていることから効果があると思う。
- ・町会連合会の中に交通安全委員会という大きな組織があり、年に1度、講習会等を文化会館等でやっているのので、そういう場を活用して、ぜひスマートドライバーをアピールしていただきたい
- ・歩行者にとって、タクシーの運転が危険と感ずることがあるため、タクシー会社や県外の運転者への呼びかけもお願いしたい。
- ・続けることが効果につながる事業だと思うので、今後もぜひ継続していただきたい。
- ・事業を実施する際は、できる限り市内の業者を利用していただきたい。

【採択結果】

合計点 81.7 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点（宮川委員は審査から外れる）

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	9.6
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	8.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	8.8
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	7.9
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	7.1
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	9.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.3
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	6.7
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.7
合計		81.7

● 9：在府町で学童保育をする／在府町で学童保育をする会

【質疑応答（抜粋）】

Q：朝陽小学校の学童の現状はどうなっているのか。

A：昨年の1年生が約24人で、学童保育は新寺町にしかなく、午後6時で閉館してしまう。児童館に着くまで1年生だと片道30分かかる。公的な施設は新寺町児童館しかなく、児童館以外では、個人的に塾に行かせたり、ベビーシッターを頼んだりなどしていると思う。

Q：今回提案している学童保育の方法は、すでに前例があるのか。

A：独自のもので、前例はない。

Q：来年は補助金を申請しないとあるが、今回の事業はいったん始めると続けられないと思うが、課題解決の方法まで今年度で整理し、来年度は収入等を含め、自主財源でやっていけるということか。

A：学童対象の1年生に限って言えば、毎年1年生はいるので、補助金に頼らず続けていく気持ちでいる。

Q：学校の空き教室など、家賃のかからない場所の利活用は考えていないか。

A：公的な建物は時間の制約があったり、空教室があったとしても、現状借りることができない。お願いすれば貸してくれるかもしれないが、1年生は、5・6年生よりも早く授業が終わるので、空き教室があったとしても、上級生がいる時間に、空き教室に1年生を集めるということはしのびないし、毎日通っている学校を私達は使いたくない。

Q：7人のスタッフはボランティアか。

A：1年目は補助金を活用するため無償ボランティアだが、構成員以外にはアルバイト料を払う。2年目からは補助金に頼らず、収入から人件費を捻出していきたい。

【主な意見】

- ・学童保育は社会的ニーズもあり、発展がずっと続く継続事業だと思う。しかも、来年以降は補助金の申請をしないということから、最初の初期投資、イニシャルコストの部分を応援するという意味では、社会的ニーズに応えるだけの意味があると思う。
- ・空き家は資源という考え方から、まずは在府町というまちなかの空き家住宅の再利用、利活用、それを地域の資源に変える試みのように思う。
- ・幼稚園や保育所などでも、事故に対してリスク対応を行っているということもあり、事業を実施する中で、ボランティアの域を超える部分も想定されるため、いろんな団体、あるいは行政の手を借りて整備していく必要があると思う。また、継続するうえで、スタッフの年齢によっては、運営がむずかしくなる可能性もあるため、例えば町内で、子育てが終わって一息ついているような人をどう巻き込んでいくかというようなところもこれからの課題だが、子どもたちのためにぜひ続けてほしい。
- ・学童保育は、地域性や利便性の問題や、家族構成だったり年齢層が違ったりするため、その地域でモデルケースを作っていくことで、最終的に弘前スタイルができていけばいいと思う。

【採択結果】

合計点 74.2 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.9
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている	6.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている	8.1
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている	8.5
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である	6.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる	7.7
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.1
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている	7.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.7
合計		74.2

3月22日審査結果（22事業のうち9事業）

採択とする事業 7事業

不採択とする事業 2事業

1次募集事業の審査結果（22事業）3月20日～22日審査合計

採択とする事業 19事業

不採択とする事業 3事業